



MP RACING

MOTEGI SUPER TAIKYU 5Hours Race

SUPER TAIKYU SERIES 2021 Powered by Hankook Round 1

カテゴリー	: スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook ST-X クラス	公式予選 A Dr.	: 1'53.426 (ST-X クラス 5 位)
エントラント	: MP Racing	公式予選 B Dr.	: 1'50.295 (ST-X クラス 4 位)
カーナンバー	: 9	公式予選 (A/B 合算)	: 3'43.721 (ST-X クラス 4 位)
マシン名称	: MP Racing GT-R	公式予選 C Dr.	: 1'52.764 (ST-X クラス 5 位)
ドライバー	: JOE SHINDO・柴田優作・影山正美・井上恵一	公式予選 D Dr.	: 1'56.302 (ST-X クラス 3 位)
大会名称	: スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook 第 1 戦 もてぎスーパー耐久 5Hours Race	決勝	: ST-X クラス 4 位 (3:19'45.470 / 79 周)
レース時間	: 5 時間		
開催地	: ツインリンクもてぎ (栃木県)		
開催日	: 2021.3.20~2021.3.21		
天候	: 晴れ / 曇り (3.20) 雨 (3.21)		

NILZZ
RACING FACTORY

nismo

MOTUL

HANKOOK
driving emotion

CURIOSITY LTD.

SUMMIT CARS

RACING



2021年3月20日から21日にかけて、栃木県のツインリンクもてぎに於いて”スーパー耐久シリーズ2021 Powered by Hankook”が幕を開けた。

COVID-19に翻弄された2020年シリーズだったが、過去最高位となるST-Xクラスシリーズ2位を獲得したMP Racing。

今シーズンは最後に残ったシリーズチャンピオン獲得という大きな目標に向けて戦っていく事となる。

今回のもてぎ戦はJOE SHINDO、柴田優作、影山正美、井上恵一の4選手がエントリーした。

エントリー台数の増加により、昨年以上に激戦必死のST-Xクラス。

ホームコースとなるツインリンクもてぎでの開幕戦で健闘が期待される。

3月19日(金) 専有走行

スーパー耐久シリーズは今季よりタイヤサプライヤーをハンコックに変更。

開幕前の公式テストは不参加だったため、MP Racingとしてはこの週末が初のハンコックタイヤを装着しての走行となる。

その為、専有走行ではハンコックタイヤの特性を掴み、セッティング変更に殆どの時間を費やした。

走行を重ねるごとにハンコックタイヤへの理解度を深め、セッティング作業は大幅に前進した。



3月20日(土) 予選

ツインリンクもてぎの上空は灰色の雲に覆われていたが、降雨の心配は無く、ドライコンディションでドライバー予選が開始された。

今季も予選方式に変更は無く、決勝スターティンググリッドの決定はA / Bドライバーのベストタイムを合算して決められる。

14時05分、ST-XクラスとST-1クラスによるグループXのAドライバー予選が開始された。JOEは8周目、最後の予選アタックの周回で1分53秒426までタイムを短縮。5番手につける。続いて15時05分から行われたグループXのBドライバー予選では柴田が1分50秒295をマークし4番手。ベストタイムの合算の結果、ST-X4位となり、MP Racingの開幕戦は2列目からのスタートが決定した。

C / Dドライバー予選はグリッド決定に影響しないことから、影山と井上が決勝レースに向けての準備を並行して行い、影山が1分52秒764で5位、井上が1分56秒302で3位とそれぞれ基準タイムをクリアした。



3月21日(日) 決勝

決勝日のツインリンクもてぎは生憎の雨模様。

ウェットコンディションのため、SC スタートとなった開幕戦のスタートドライバーは JOE が担当した。

雨の勢いが弱まった事から 4 周目より本格的にレースがスタート。

ハンコックのウェットタイヤを装着したのは決勝前に急遽行われた僅か 15 分間のウォームアップ走行のみ。ウェットタイヤの特性を探りながら慎重なドライビングで周回を重ねていく JOE。

10 周を過ぎた頃から徐々に雨は強くなり、コンディションは更に悪化していった。

ジェントルマンドライバー規定に定められている最低運転時間を完了し、26 周を終えた JOE は最初のピットイン。柴田にドライバー交代を行う。

コースに復帰したが、JOE のステント時よりも更に雨量が増した事で、柴田はマシンをコース上に止める事がやっとなんと言う最悪のコンディション下での走行を強いられてしまう。

55 周目に雨が強まり、路面コンディションが悪化したためセーフティーカーが導入。

MP Racing はこれに合わせて 2 回目のピットストップを行い、影山にドライバーを交代した。

59 周目にセーフティーカーが解除。レースが再開されてからの影山はアグレッシブな走りて周回を重ね、順位を 3 位まで浮上させる事に成功する。



4位でコースに復帰し、セーフティーカー先導による隊列走行を続けていた。セーフティーカー解除後の追い上げに期待したが、結局天候が回復することなく、15時25分に赤旗が提示され、レースは中断。天候の回復が見込めないという事でそのままレースは終了。MP Racingの開幕戦は4位という結果となった。

まずは無事に開幕戦を終えることができ安堵しております。しかし今回のレース展開は我々には有利には働かなかったようで非常に残念です。次戦菅生大会では気持ちをあらため、勝利を目指して一層の努力を行います。引き続き皆様のご声援、ご支援を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

